

福岡県グループホームじゅうれん 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットさくら

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の皆さんと共に、今までの生活の継続で、あるがままの生活を支えていくという理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は見易いところに掲示すると共に、ケアプラン作成時・カンファレンス時など意識しながら、実践できるように取り組みをしている。今までの生活の継続が出来るよう、地域の方とのふれあい・家族との時間を大切に、常時、自然を基本に取り組んでいる。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	尚寿会・ボランティア又、講演依頼等交流時にグループホームの役割・機能を理解して頂き、当ホームの理念や基本方針をあげて、生活内容が分かるように努めている。		
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	周辺が公園という事もあり、地域の方々の散歩、憩いの場にもなっている為、入居者様と顔なじみの方も多く、散歩中、声かけ話込まれる事もあり、普通の隣近所の会話となっている。農村地帯の為、自家製野菜の頂きも多い。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	母体の法人自体、地域の黒松まつり時、駐車場を開放したり、人形館を自由に見学出来るように開放している。地域の保育園児との交流や、中学生の体験学習等を受け入れ交流を深めている。地域の行事には積極的に参加している。		
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	区長、民生委員、尚寿会（老人会）の方の参加をして頂いている運営推進会議等を通していつでも意見、相談をして頂ける様伝えている。又認知症、在宅介護の講演依頼にも対応している。		

福岡県グループホームじゅうれん 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットさくら

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	グループホームの目的や意義を理解し取り組んでいる。外部評価がある事で当施設も振り返る事が出来、サービスの質の向上に繋がっていると考えている。今までも評価頂き、解決すべき課題があれば検討し、改善に繋げるよう努めている。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議については、サービス内容は勿論、ご家族からの意見、参加者からの声を取り入れ、サービスの向上に繋がる様、努めている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政機関への訪問、久留米市介護福祉サービス事業所協議会等に参加し、市との連携を図り、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度を理解する為に研修会に参加、又は当ホームでも勉強会を実施している。		
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者も介護に従事しながら、入居者の状況を観察している。又、職員のストレスがないか、ストレスに関しての勉強を行っている。	○	職員のストレスを溜めさせない、働きやすい職場作りを考えていきたい。ストレスマネジメントの勉強に取り組んでいく予定。
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約に関しては、丁寧に説明を行う様心掛けています。不安や疑問点があれば、いつでもお尋ねして下さいと声掛けしている。		

福岡県グループホームじゅうれん 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットさくら

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、外部機関も掲示している。 日頃より声かけを行い、個別的に聞く様、配 慮し運営に反映させている。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる	お便りや家族面会時に暮らしぶりは、報告し ている。健康状態の異変に関しては、随時、 電話連絡を必ず行っている。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のメンバーに入り、参加して頂 いている。外部の方々に日頃の不安・悩み・ 要望等、発言出来るように努めている。ま た、個別の対応もしている。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	会議・ミーティングなど、職員の声は大切に している。話しやすい雰囲気作り、又、誰か らでも意見が聞けるよう、管理者の方から声 掛けし、業務改善に努めている。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	行事等で人員を要する場合、又、公休・夜勤 希望等、子育て・家庭・仕事と両立出来るよ う配慮している。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	当法人は、現場の状況を最優先と考えて頂い ている為、現場が混乱しないよう配慮して頂 いている。		

福岡県グループホームじゅうれん 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットさくら

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	当施設は、幅広い年齢層で性別・年齢は問わない。自分の得意分野を發揮し、専門の知識・技術を習得し、レベルアップを目指す意識付けが出来るよう配慮している。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	当法人全体でスライド・ビデオ等を使用し、全体研修会を行っている。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	当法人、全体研修、在宅棟（デイサービス・デイケア・グループホーム）研修、外部研修と安全、感染看護等を含め研修を行っている。新人研修を始め研修計画を作成している。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	久留米市介護福祉サービス・グループホーム協議会等で、交流の機会を持っている。気軽に相談出来るグループホームもあり、お互いに訪問したり、活動状況を聞いたり、情報交換を行っている。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は定期的に食事会を開き、現場職員の悩みや、ストレス発散の場を設けている。家庭と仕事の両立が出来るよう勤務も細やかに対応し、勤務表を作成している。管理者はストレスマネジメントの勉強も行っている。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の家庭状況、希望休に配慮し勤務表を作成している。勤務状況やその職員の得意分野を見つけ、ほめる事を忘れず、生き生きと仕事出来るように努めている。勤務年数に応じ、研修・国家試験等への配慮もしている。		

福岡県グループホームじゅうれん 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットさくら

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者様の生活状況、生活暦の情報をしっかり知る為、来て頂き、慣れて頂いて不安の軽減に努めている。ゆっくり会話したり時間を作るなどして、本人を安心して暮らせる様支援している。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族・入居予定者が不安や納得出来ない場合、何度でも見学され、お話・相談に応じるようにしている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容に応じては、グループホームより他サービス利用を検討した場合も多い為、当法人のソーシャルワーカーと連携を図っている。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居申し込みの際、必ずご本人の見学もお願いしている。説明をし、納得をしてもらい入居して頂いている。認知症デイサービスに通所し、馴染んでからの入所もあると説明している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として敬う気持ちを大事にし、日常生活の中で色々教わる事も多く、共に活動している。会話も大切に、さりげなく寄り添う様に努めている。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日常生活の中で、本人の持てる力を発揮出来る場面を多く作り、役割を持って活動して頂いている。本人から情報をもらい、学ばせて頂く事も多い。お互いに支え、支えられる関係を築いている。		

福岡県グループホームじゅうれん 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットさくら

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には 日頃の生活状況や写真などを利用してお話したり、和やかな雰囲気作りを行っている。生活している所は異なっても、家族の一員だから面会に来られ大切にされている事を説明している。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の方が多い為 自宅まで散歩に出掛けたり、ドライブで馴染みの場所に行った、住み慣れた場所・知人との関係が継続できるよう普通の生活を心掛けている。		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	気の合う者同士、お友達になられてお話も弾んでいる。入居者様が職員の代わりに上手に手を握って話しかけたり、心優しい関わりに務めている。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了しても、家族の方とお話したり、施設入所の場合、面会に行ったり、気軽に相談したり、訪問しやすいように心掛けている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話は、関わりの中で本人の希望意向を聞いたり、酌んだり、家族からお伺いしたり、本人の思いや意向を大事にしている。困難な場合は、ご家族と職員で検討している。(表情や言動より)		
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族・サービス事業所等から情報を頂き、今までの生活の継続が基本と考えている。		

福岡県グループホームじゅうれん 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットさくら

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の様子、心身の状態等いつでも把握できるように記録し、皆で共有できるように務めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の願い、要望をお伺いし、ご本人が望む生活になるよう介護計画を作成している。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて見直しを行うと共に、状態変化時には、速やかに担当者会議を開催し見直しを行って、新しい計画を作成している。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状態は記録に残し、情報の共有を図っている。問題点等、毎日のミーティング時に検討し、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人・ご家族の要望は、大事にしている。急な外出、外泊中止、共用型認知症デイサービスの時間延長、早朝からの受け入れなど柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員、ボランティア、保育園児との交流等を行っている。又消防署の協力を得、避難訓練も行っている。		

福岡県グループホームじゅうれん 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットさくら

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の必要に応じ、訪問看護などの利用も行っている。ケアマネージャー・ソーシャルワーカー・理学療法士・音楽療法士によるサービスの協力を得支援している。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの職員には、運営推進会議のメンバーとして情報の公表を行っている。又色々情報や意見も頂き、ケアに活かしている。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に必ずかかりつけ医の確認を実施している。ご本人主体である為、入居前ご家族の要望に対応している。当ホームは、病院併設の為、緊急時の医療連携は充分である。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	三潴地区の物忘れ外来が当ホーム併設病院に設置されている為、常時相談できる体制にあり受診支援も出来る。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホームに常勤の看護師が2名いる。又、訪問看護ステーションとの連携もあり、気軽に相談しながら、入居者様の健康管理などの支援を行っている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居者が入院された場合、常時面会に行き、本人・家族に安心して頂けるように配慮している。病院・家族との情報交換を行うよう努めている。		

福岡県グループホームじゅうれん 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットさくら

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	病院併設の為、医療・かかりつけ医との連携を保ち、ご家族の希望に応じている。又、訪問看護ステーションとの連携も出来ることを説明し、希望に応じている。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	併設病院、かかりつけ医・看護職員・訪問看護ステーションとチームとして支援できる体制にあり備えている。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご家族や関係者から情報を頂き、出来るだけ本人が居心地の良い場所となるよう心掛けている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー・個人情報等については、当法人より研修会を受講し意識付けを行っている。マニュアル作成。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常の関わりの中で分からないと決めつけず充分説明し、自分でなるべく決められるように配慮している。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせ支援している。朝早い方・遅い方、それぞれの時間の朝食・就寝も早い方・遅い方それぞれの時間で支援している。		

福岡県グループホームじゅうれん 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットさくら

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し 美容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その人らしい身だしなみや、おしゃれが出来るよう、本人に決めてもらっている。朝からお化粧される方・入浴後乳液・化粧水を付けられる方・地域的美容室へ行かれる方等、本人・ご家族の要望に対応している。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と買い物に行き、食べたい物があればその時買い物してきたりしている。食事は、目で見て食べて楽しむ事を基本としている。季節の葉を取ってきて盛り付けたりしている。入居者も「出来る事は一緒に」を基本とし、会話しながら食べている。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品に対しては、お酒・コーヒー等その方の好みで対応している。個人的にお菓子類・清涼飲料水など好みで楽しめるよう支援している。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄の パターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりのパターンや状況を見逃さず、誘導をかけている。なるべく失敗やパットの量を少なくしようと布パンツの使用を心掛けている。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの 希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、一日中入浴できるようにしている。温泉気分を味わいたい方は、大きい入浴場を利用できるよう対応している。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気 持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や状況に応じ、居室ベットや和室の畳で日光浴したり、ソファでうたた寝と自由にして頂いている。		

福岡県グループホームじゅうれん 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットさくら

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご本人のやりたい事、楽しみを見極め、ピアノを弾いたり本を読んだり、施設内散策・遊歩道の散歩・ドライブと行っている。週1回、音楽療法士による対応も楽しみの一つである。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方が小銭を管理されている。食材の買い物時、自分の好みの物を買って来られたりしている。個別対応も行っている。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物など希望に応じ対応している。ご家族にも呼び掛け、一緒に外出できるよう支援している。秋には、キンビールのコスモスを見学に、家族と外出された方もある。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族の面会時、外出・お墓参り・買い物・外食など対応して頂けるよう支援している。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お年賀やお手紙で交流が途切れないように支援している。定期的に遠くにお住まいの子どもさんから電話やお手紙が来たりしているので大切に支援している。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	訪問の際は、居室でゆっくり過ごして頂いている。お茶やお菓子の接待も行っている。面会時間は設定していない為、自由に訪問されている。		

福岡県グループホームじゅうれん 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットさくら

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成している。又、法人として身体拘束委員会もあり、全職員へ意識付けを行っている。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関・フロアには鍵をかけず見守りを行っている。夜間は、警備会社にもお願いし、対応出来るようにしている。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在確認は、職員同士気配りしながら行っている。法人とも連携を行い、認知等で帰って来れない方など、情報を共有している。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご本人で管理できる方・できない方で、対応方法は異なって支援している。化粧品・ハサミ・爪切りなど、又洗剤・包丁など保管場所方法があり、目の届かないようにマニュアル化している。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	安全管理委員会があり、定期的に研修会を行っている。一人ひとりの状態変化を見逃さず、職員で共有し取り組んでいる。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルを作成している。全職員、救命救急講習を定期的に受講している。AEDも設置し、定期的に講習を受けている。		

福岡県グループホームじゅうれん 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットさくら

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアル作成している。避難訓練も行い、入居者様の状態も、行政区長をはじめ消防署の方にお知らせし、協力を得られるようにしている。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状態に応じ考えられるリスクについて、充分家族に説明を行い理解を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化があれば記録に残し、看護師に報告・話し合い、情報を共有し対応している。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が管理している。個人の処方箋は、常時見る事が出来る場所に管理している。誤薬が無いように日付・名前を確認し、声を出して本人へ渡す。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便回数・量・状態を把握し、水分補給や食物繊維物を取り入れたり、運動・腹部マッサージ・散歩・体操などで対応するように心掛けている。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを行っている。義歯の方は、義歯洗浄剤を利用している。一人ひとりの状態や力に応じ支援している。		

福岡県グループホームじゅうれん 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットさくら

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えながら献立を立てている。一人ひとりの状態に合わせた量・形態をみんなで検討しながら支援している。		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルを作成している。感染委員会による研修が定期的であり、感染防止の意識付けを行っている。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具・布巾などは、夜勤時に消毒し衛生管理に努めている。食材も生鮮食材は、毎朝配達して頂いている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には火鉢や瓶に花を生けたり、温かみのある家になるように気配りしている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や和室には、絨を使った小物・パッチワークなどで生活感を出している。季節の花を植えたり生けたりして、季節感を感じて頂けるよう支援している。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや和室などで、気の合った入居者同士で会話したり、テレビ観賞、居眠りなど思い思い過ごされている。バルコニーでは、ゆっくりお茶を飲んだり出来るように用意している。		

福岡県グループホームじゅうれん 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットさくら

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、以前より愛用されていた物・テレビ・仏壇やお花等を置かれ、居心地よく過ごせるように配慮している。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日窓を開けて換気したり、空気洗浄器などを利用し、換気に心掛けている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は、バリアフリー・必要に応じてすりを設置している。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの場所は、大きく分かりやすく表示している。又、居室も分かりやすく目印を付けている方もある。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダでは、お茶を飲んだり出来るよう、テーブル・椅子を準備している。玄関・バルコニーで花を育て、水遣りをしたり出来るようにしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当ホームは、公園の一角にあり、リビングから見る十連公園の景色は素晴らしく、地域の方々の散歩道、憩いの場となっている所でもある。当ホームも散歩コースとして利用している。入居者様の個々出来ること、楽しみを大切に支援致している。地域で生活してこられた皆様の今までもこれからも、自分らしく【あるがままの生き方】を支援するという理念を大切に取り組んでいる。母体が医療法人ということもあり、医療連携のサポートも安心出来る。職員も母体との内部研修、又外部研修にも参加し、スキルアップに努めている。認知症対応型通所介護（共用型）も開設している。住み替えのダメージも少なく、馴染みの関係を作りながら地域で暮らす事を大事に、御家族が気軽に立ち寄れる地域に根ざしたホームを目指し取り組んでいる。

福岡県グループホームじゅうれん 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットうめ

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【 I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域で地域の皆さんと共に普通の今までの生活の継続で、あるがままの生活を支えていくという理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は見易いところに掲示すると共にケアプラン作成時、カンファレンス時など意識しながら実践できるように取り組みをしている。今までの生活の継続が出来るよう地域の方とのふれあい、家族との時間を大切に、常時自然を基本に取り組んでいる。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	尚寿会、ボランティア又講演依頼等交流時にグループホームの役割、機能を理解して頂き、当ホームの理念や基本方針をあげて生活内容が分かるように努めている。		
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	周辺が公園という事もあり、地域の方々の散歩、憩いの場にもなっている為、入居者様と顔馴染みの方も多く、散歩中、声かけ話込まれる事もあり、普通の隣近所の会話となっている。農村地帯の為、自家製野菜の頂きも多い。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	母体の法人自体、地域の黒松まつり時、駐車場を開放したり、人形館を自由に見学出来るように開放している。地域の保育園児との交流や、中学生の体験学習等を受け入れ、交流を深めている。地域の行事には積極的に参加している。		
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	区長、民生委員、尚寿会（老人会）の方の参加をして頂いている。運営推進会議等を通して、いつでも意見・相談をして頂ける様伝えている。又、認知症、在宅介護の講演依頼にも対応している。		

福岡県グループホームじゅうれん 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットうめ

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	グループホームの目的や意義を理解し取り組んでいる。外部評価がある事で当施設も振り返る事が出来、サービスの質の向上に繋がっていると考えている。今までも評価頂き解決すべき課題があれば検討し、改善に繋げるよう努めている。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議については、サービス内容は勿論、ご家族からの意見、参加者からの声を取り入れ、サービスの向上に繋がる様、努めている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政機関への訪問、久留米市介護福祉サービス事業所協議会等に参加し、市との連携を図り、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度を理解する為に研修会に参加、又は当ホームでも勉強会を実施している。		
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者も介護に従事しながら、入居者の状況を観察している。又、職員のストレスがないか、ストレスに関しての勉強を行っている。	○	職員のストレスを溜めさせない、働きやすい職場作りを考えていきたい。ストレスマネジメントの勉強に取り組んでいく予定。
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約に関しては、丁寧に説明を行う様心がけている。不安や疑問点があれば、いつでもお尋ねして下さいと声掛けしている。		

福岡県グループホームじゅうれん 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
ユニットうめ

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、外部機関も掲示している。日頃より声掛けを行い、個別的に聞く様配慮している。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	お便りや家族面会時に暮らしぶりは報告している。健康状態の異変に関しては随時、電話連絡を必ず行っている。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のメンバーに入り、参加して頂いている。外部の方々に日頃の不安、悩み、要望等、発言出来るように努めている。また、個別の対応もしている。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議、ミーティングなど、職員の声は大切にしている。話しやすい雰囲気作り、又誰からでも意見が聞けるよう管理者の方から声掛けし、業務改善に努めている。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事等で人員を要する場合、又公休、夜勤希望等、子育て、家庭、仕事と両立出来るよう配慮している。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	当法人は、現場の状況を最優先と考えて頂いている為、現場が混乱しないよう配慮して頂いている。		

福岡県グループホームじゅうれん 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットうめ

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	当施設は、幅広い年齢層で性別も問わない。自分の得意分野を發揮し、専門の知識、技術を習得しレベルアップを目指す意付けが出来るよう配慮している。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	当法人全体でスライド、ビデオ等を使用し全体研修会を行っている。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	当法人、全体研修、在宅棟（デイサービス・デイケア・グループホーム）研修、外部研修と安全、感染看護等を含め研修を行っている。新人研修を始め研修計画を作成している。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	久留米市介護福祉サービス、グループホーム協議会等で交流の機会を持っている。気軽に相談出来るグループホームもあり、お互いに訪問したり、活動状況を聞いたり、情報交換を行っている。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は、定期的に食事会を開き現場職員の悩みやストレス発散の場を設けている。家庭と仕事の両立が出来るよう勤務も細やかに対応し、勤務表を作成している。管理者はストレスマネジメントの勉強も行っている。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の家庭状況、希望休に配慮し勤務表を作成している。勤務状況やその職員の得意分野を見つけ、ほめる事を忘れず生き生きと仕事出来るように努めている。勤務年数に応じ研修、国家試験等への配慮している。		

福岡県グループホームじゅうれん 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットうめ

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者様の生活状況、生活暦の情報をしっかり知る為、来て頂き、慣れて頂いて不安の軽減に努めている。ゆっくり会話したり時間を作るなどして、本人を安心して暮らせる様支援している。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族、入居予定者が不安や納得出来ない場合、何度でも見学されお話相談に応じるようにしている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容に応じては、グループホームより他サービス利用を検討した場合も多い為、当法人のソーシャルワーカーと連携を図っている。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居申し込みの際、必ずご本人の見学もお願いしている。説明、納得して頂いて入居して頂いている。認知症デイサービスに通所し、馴染んでからの入所もあると説明している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として敬う気持ちを大事にして、日常生活の中で色々教わる事も多く共に活動している。会話も大切に、さりげなく寄り添う様に努めている。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日常生活の中で、本人の出来る力を発揮出来る場面を多く作り、役割を持って活動して頂いている。本人から情報をもらい学ばせて頂く事も多い。お互いに支え、支えられる関係を築いている。		

福岡県グループホームじゅうれん 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
ユニットうめ

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には 日頃の生活状況や写真などを利用し、お話ししたり和やかな雰囲気作りを行っている。生活している所は異なっても、家族の一員だから面会に来られ大切にされている事を説明している。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の方が多い為、自宅まで散歩に出掛けたりドライブで馴染みの場所に行ったり、住み慣れた場所・知人との関係が継続できるよう普通の生活を心掛けている。		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	気の合う者同士お友達になられて、お話も弾んでいる。入居者が職員の代わりに上手に手を握って話しかけたり、心優しい関わりに務めている。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了しても家族の方とお話したり、施設入所の場合面会に行ったり、気軽に相談したり訪問しやすいように心掛けている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話は、関わりの中で本人の希望意向を聞いたり酌んだり、家族からお伺いしたり本人の思いや意向を大事にしている。困難な場合は、ご家族と職員で検討している。(表情や言動より)		
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族・サービス事業所等から情報を頂き、今までの生活の継続が基本と考えている。		

福岡県グループホームじゅうれん 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
ユニットうめ

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の様子、心身の状態等いつでも把握できるように記録し、皆で共有できるように務めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の願い、要望をお伺いし、ご本人が望む生活になるよう介護計画を作成している。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて見直しを行うと共に状態変化時には、速やかに担当者会議を開催し見直しを行って、新しい計画を作成している。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状態は記録に残し、情報の共有を図っている。問題点等、毎日のミーティング時に検討し、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人・ご家族の要望は、大事にしている。急な外出、外泊中止、共用型認知症デイサービスの時間延長、早朝からの受け入れなど柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員、ボランティア、保育園児との交流等を行っている。又、消防署の協力を得、避難訓練も行っている。		

福岡県グループホームじゅうれん 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットうめ

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の必要に応じ訪問看護などの利用も行っている。ケアマネージャー・ソーシャルワーカー・理学療法士・音楽療法士によるサービスの協力を得、支援している。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの職員には、運営推進会議のメンバーとして情報の公表を行っている。又、色々な情報や意見も頂き、ケアに活かしている。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に必ずかかりつけ医の確認を実施している。ご本人主体である為、入居前ご家族の要望に対応している。当ホームは、病院併設の為 緊急時の医療連携は充分である。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	三潆地区の物忘れ外来が当ホーム併設病院に設置されている為、常時相談できる体制にあり受診支援も出来る。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホームに常勤の看護師が2名いる。又、訪問看護ステーションとの連携もあり、気軽に相談しながら入居者様の健康管理などの支援を行っている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居者が入院された場合、常時面会に行き、本人・家族に安心して頂けるように配慮している。病院・家族との情報交換を行うよう努めている。		

福岡県グループホームじゅうれん 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットうめ

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	病院併設の為、医療・かかりつけ医との連携を保ち、ご家族の希望に応じている。又、訪問看護ステーションとの連携も出来ることを説明し、希望に応じている。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	併設病院・かかりつけ医・看護職員・訪問看護ステーションと、チームとして支援できる体制にあり備えている。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご家族や関係者から情報を頂き、出来るだけ本人が居心地の良い場所となるよう心掛けている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー・個人情報等については、当法人より研修会を受講し意識付けを行っている。マニュアル作成。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常の関わりの中で分からないと決めつけず充分説明し、自分でなるべく決められるように配慮している。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせ支援している。朝早い方・遅い方、それぞれの時間の朝食・就寝も早い方・遅い方、それぞれの時間で支援している。		

福岡県グループホームじゅうれん 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットうめ

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その人らしい身だしなみや、おしゃれが出来るよう本人に決めてもらっている。朝からお化粧される方・入浴後乳液・化粧水を付けられる方・地域の美容室へ行かれる方、本人ご家族の要望に対応している。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と買い物に行き、食べたい物があればその時買い物してきたりしている。食事は、目で見て食べて楽しむ事を基本としている。季節の葉を取ってきて盛り付けたりしている。入居者も「出来る事は一緒に」を基本とし会話しながら食べている。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品に対しては、お酒・コーヒーなどその方の好みで対応している。個別にお菓子類・清涼飲料水など好みで楽しめるよう支援している。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりのパターンや状況を見逃さず誘導をかけている。なるべく失敗やパットの量を少なくしようと布パンツの使用を心掛けている。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、一日中入浴できるようにしている。温泉気分を味わいたい方は、大きい入浴場を利用できるよう対応している。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や状況に応じ、居室ベットや和室の畳で日光浴したり、ソファでうたた寝と自由にして頂いている。		

福岡県グループホームじゅうれん 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットうめ

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご本人のやりたい事、楽しみを見極め、ピアノを弾いたり本を読んだり、施設内散策・遊歩道の散歩・ドライブと行っている。週1回、音楽療法士による対応も楽しみの一つである。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方が小銭を管理されている。食材の買い物時、自分の好みの物を買って来られたりしている。個別対応も行っている。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物など希望に応じ対応している。ご家族にも呼び掛け。一緒に外出できるよう支援している。秋には、キンビールのコスモスを見学に参加と外出された方もある。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族の面会時、外出・お墓参り・買い物・外食など対応して頂けるよう支援している。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お年賀やお手紙で交流が途切れないように支援している。定期的に遠くにお住まいの子どもさんから電話やお手紙が来たりしているので大切に支援している。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	訪問の際は、居室でゆっくり過ごして頂いている。お茶やお菓子の接待も行っている。面会時間は設定していない為、自由に訪問されている。		

福岡県グループホームじゅうれん 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットうめ

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成している。又、法人として身体拘束委員会もあり、全職員へ意識付けを行っている。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関・フロアには鍵をかけず見守りを行っている。夜間は、警備会社にもお願いし対応出来るようにしている。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在確認は、職員同士、気配りしながら行っている。法人とも連携を図り、認知等で帰って来れない方など、情報を共有している。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご本人で管理できる方・できない方に対応方法は、異なって支援している。化粧品・ハサミ・爪切りなど、又洗剤・包丁など保管場所方法があり、目の届かないようにマニュアル化している。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	安全管理委員会があり、定期的に研修会を行っている。一人ひとりの状態変化を見逃さず、職員で共有し取り組んでいる。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルを作成している。全職員、救命救急講習を定期的を受講している。AEDも設置し定期的に講習を受けている。		

福岡県グループホームじゅうれん 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットうめ

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアル作成している。避難訓練も行い、入居者様の状態も行政区長をはじめ消防署の方にもお知らせし、協力を得られるようにしている。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状態に応じ考えられるリスクについて、充分家族に説明を行い理解を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化があれば記録に残し、看護師に報告・話し合い情報を共有し対応している。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が管理している。個人の処方箋は、常時見る事が出来る場所に管理している。誤薬が無いように日付・名前を確認し、声を出して本人へ渡す。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便回数・量・状態を把握し、水分補給や食物繊維物を取り入れたり、運動・腹部マッサージ・散歩・体操などで対応するように心掛けている。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを行っている。義歯の方は、義歯洗浄剤を利用している。一人ひとりの状態にや力に応じ支援している。		

福岡県グループホームじゅうれん 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
ユニットうめ

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えながら献立を立てている。一人ひとりの状態に合わせた量・形態をみんなで検討しながら支援している。		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルを作成している。感染委員会による研修が定期的であり、感染防止の意識付けを行っている。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具・布巾などは、夜勤時に消毒し衛生管理に努めている。食材も生鮮食材は、毎朝配達していただいている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には、火鉢や瓶に花を生けたり、温かみのある家になるように気配りしている		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や和室には、絨を使った小物、パッチワークなどで生活感を出している。季節の花を植えたり生けたりして、季節感を感じて頂けるよう支援している。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや和室などで気の合った入居者同士で会話したり、テレビ観賞、居眠りなど思い思い過ごされている。バルコニーでは、ゆっくりお茶を飲んだり出来るように用意している。		

福岡県グループホームじゅうれん 地域密着型サービス外部評価の自己評価票 (網掛け部分は外部評価の調査項目)
 ユニットうめ

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、以前より愛用されていた物・テレビ・仏壇やお花等を置かれ、居心地よく過ごせるように配慮している。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日窓を開けて換気したり、空気洗浄器などを利用し換気に心掛けている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は、バリアフリー・必要に応じてすりを設置している。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの場所は、大きく分かりやすく表示している。又、居室も分かりやすく目印を付けている方もある。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダでは、お茶を飲んだり出来るようテーブル・椅子を準備している。玄関・バルコニーで花を育て、水遣りをしたり出来るようにしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当ホームは、公園の一角にある。リビングから見る十連公園の景色は素晴らしく、地域の方々の散歩道、憩いの場となっている所でもある。当ホームも散歩コースとして利用している。入居者様の個々出来ること、楽しみを大切に支援致している。地域で生活して来られた皆様の、今までもこれからも、自分らしく【あるがままの生き方】を支援するという理念を大切に取り組んでいる。母体、スキルアップに努めている。認知症対応型通所介護（共用型）も開設している。住み替えのダメージも少なく、馴染みの関係を作りながら地域で暮らす事を大事に、御家族が